

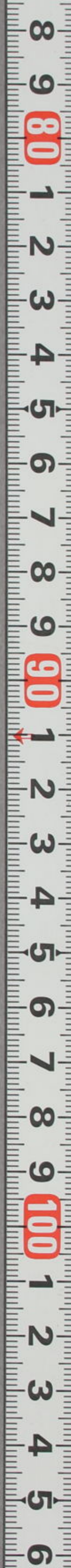


養浩堂史料

十六年

下  
部  
号共六册  
戊戌丑月考

早稲田大学図書館  
文書 27  
B 5  
4



十六年  
愛護  
雲和  
雲龍

十九年一月二十日抄出

養浩堂

日清事行

十六年一月二十日

愛護

愛護

愛護

蘇摩合祭使有侍會長長國後美之贈

冠冕群英六十州長國健者是也傳能將一柱擊是守有挽

往洲五細洲 予和共願祭庶君

我恩可州君貴州連衡兩國豈無傳 黃龍旗与把先味

偶氣群雲滿亞洲

二十七日

壯在雲方子蘇姚交棟張滋乃由印古海長改東會以日十月九  
日七蘇東坡誕辰五印三八文人相會祝

十六年

馬建忠の専断  
五十一日函より日清議定書  
の朝鮮領土に依る事

償金

○馬建忠朝鮮一系に専断、御史等より彈劾せらるるに對しては官位剥奪、御里に放逐する待命とす。清政府は未だ強し是を李鴻章等折るに歎き、李氏は協定に配是れ朝鮮屬分は七部政府に極

務とす。西南一系も酒々面倒、之れ穆公等協定案を指出す事あり。陸

光考すに歎

二月一日、金村尾茂倉者箱、朝鮮人金玉均の訪、夜九時迄、許五本酒、酒飯、蟹、醬油、漬物

二月、香松方、加藤光、面會より、之れ清政府談判、詳意

相方、復利、付、中、歩

十五年

二月二十七日  
關中相、加、ニ、ツ、ク、死、ス、  
四、日、内、閣、混、雜、シ、酒、  
場、に、先、集、リ

陳允頤字蒼原

二月十六日、張沅、招、中、村、都、守、同、伴、紅、葉、館、に、會、ス

二十日、黒田、觀、向、法、國、行、ノ、願、書、ヲ、出、シ、願、書、不、行、ス

杉、大、輔、曾、布、哇、ヲ、米、國、資、港、ニ、着、キ、電、報、ヲ、リ、電、報、他、日、リ

二十七日、陳、領、事、招、中、村、同、紅、葉、館、に、會、ス

二十七日、金子、厚、平、ヲ、北、京、來、朝、東、亞、中、心、に、依、テ、得、リ

松、名、二、面、田、松、名、紅、葉、館、に、會、ス、事、ヲ、申、進、ス

二十八日、金子、厚、平、七、日、紅、葉、館、に、於、テ、穆、公、意、旨、ヲ、招、呼、者、清、公、傳、知、  
東、亞、來、ル、事

三月、音、清、傳、行、ヲ、訪、稿、を、止、在、吉、密、に、大、陳、善、後、ヲ、訪、テ、金、財、來、  
留、在、吉、密、に、其、地、に、訪、紅、葉、館、會、會、檢、已、音、財、訪、略、成

十三年  
金芳集来

李祖淵来

昔碧瓦有束鞠 六百松方在来

七日紅葉館松方主成 褚氏及我 招久深殿魚金瓜

通辨業心。八百花若雲 抵在三月物 欲正觀文據

秀仙日市。九日長園宴會 妙多棟方 總張汝所

宗義天中村 柳竹留此岸 是若云不來 陳登原乃為

十日金玉均 此地列排 上海行 八頗可怪想 佛蒲西人荷

十者陳允歐 英潘通村 陳錦芳 来

十六日花房 公使西國 觀劇 計集

筆地莊吉南 乃涉酒樓 狂老 來

二十日莊吉南 乃涉集點 刻石 来

十六年

三月十六日

謹啓而未益 益好 祥也 起在 遂賢 至所者 一別 以策

古無者 十長內 牙華如水 長去身 今乃 極廣 分身

之日 乃貴 如何 人生 何為 如此 連 之 歎 也 老 兒

之 所 也 遠 矣 乃 屈 指 拾 却 之 海 任 也 之 變 現 也

之 所 也 乃 貴 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也

之 所 也 乃 貴 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也

之 所 也 乃 貴 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也

之 所 也 乃 貴 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也

之 所 也 乃 貴 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也

之 所 也 乃 貴 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也 乃 歎 也

十五年  
不コラ流行  
朝鮮 騷擾





三月 十六日

金杉温泉、參、吉井、待子一睡、夫、同浴、遂、貴島、宰輔、宅、訪、不在、三月、  
杓金、手、殿、飯、吃、木、川、逢、末、川、日、熱、海、行、此、節、海、軍、卿、在、熱、海、  
二十一日 癸未 木曜

宮内省出勤

長田盛太郎、佛回統領、熱牌、贈、譯、文、點、削、之、末、  
尻、愛、節、知、不、思、中、相、成、リ、タリ

宮内卿、伊地知、獻、奉、事、申、述、乃、物、六、帖、二十、冊、其、改、律、地、申、述、  
千、及、高、雅、訪、中、條、入、末、暫、時、相、話、二月、辛、巳、夜、石、茂、尾、三月、辛、酉、京、  
山、尾、參、中、水、本、河、瀬、渡、計、吉、井、小、森、沢、相、客、一、百、瓶、梅、花、坐、上、  
歸、花、見、櫻、花、應、舉、雪、月、花、三、幅、見、細、君、出、席、十、時、歸、宅、以、夜、月、色、好、

山尾會  
田中不三摩  
水本成美  
山、高、秀  
河瀬  
渡、尾、昇  
吉井、有、次、良  
小森、沢、長、法

二十三日 癸未 金曜

朝鉦鹿赫春、入、末、副、島、家、嫡、子、恩、九、十、歲、死、生、乃、清、公、使、報、者、且、輓、聯、之、度、  
自、飛、散、吳、樣、之、宮、内、省、(元)調、轉、ム、

岩倉、家、病、氣、見、舞、之、副、島、參、之、吊、向、態、不、達、停、  
橋、下、水、排、烟、見、分、存、外、下、其、來、竹、古、藤、浪、花、屋、案、内、馳、走、以、初、月、好、好、  
二十四日 癸未 土曜

戶利鉦鹿生、入、末、乘、波、遣、使、之、英、詔、之、候、ハ、相、成、有、以、申、末、  
戶、利、鉦、鹿、公、使、書、以、以、副、島、輓、聯、之、遣、之、右、篤、勘、考、之、副、島、  
黎、庶、昌、之、文、詔、源、因、逆、條、理、者、出、之、候、ハ、有、差、支、之、行、之、起、草、セ、リ、

宮内省、出勤、御、補、面、會、副、島、不、幸、之、支、即、公、使、之、語、アリ、  
吉井、今日、杓、乃、行、如何、書、如、之、遣、セ、リ、只、地、納、所、副、島、不、幸、之、申、末、

宮内省ヨリ副島ハ御内儀ヲ御菓子被成下

因憲編纂紀原  
ヲ方倉ハ西回  
道ハ

山本及一長  
此失ハ階  
キハ

山本復一入末多倉家ヨリ住ニテ一昨年多倉家密封、山本明治五年

書類一冊備向致シ及右原書紛失ハテ子草稿滿用ハシ仍テ一冊造ル

清公使ヨリ書状ヲ以テ覽聯ヲ贈リ末ニ依テ請取證シ造ル右白絹二葉ハ

大宏認ノ到来

清使館ハ銀花呼ビ造セシ不在館ニハ助者以テ副島、真造ニ

金杉温泉、五時後入浴 銀鹿齋途中ニ逢テ。温泉ニ吉井全

福子

歸宅真長政ハ答リ強請以テ大伴留切古海山林上杉顯勝アリ

副島ヨリ家来ヲ以テ清公使ノ贈物并ハ山子ノ配慮ヲ特ニ謝シ来ル

助吉副島ヨリ返信持参有餘程感泣ル由来ル

二十五日 癸未 日曜 三月

朝ヨリ垂氣合日ノ到晚十日ニ一封差出シ一雷奔走ノ事ヲ報知ハ晚未有校

書祀食ノ事ヲ報、迄ハ不往

夜詩稿ヲ抄写十二時休息



田原助其比  
山本樓一入未...

山本樓一入未...

山本樓一入未... 去年... 山本樓...

大業誌...

法使...

金杉...

...

...

...

三月

三月... 山本...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

日間奉大教誦志副島有喪朋士感事極可傷  
傷者撰聯語奉治詞維不而意則懇摯  
亦代轉致副島為幸

逢東天氣尚佳稍遲當圖一餐也  
官力由來者何下二月事不  
務應易以有

前於歲末於鄉副島樞臣是雅負時望予相見於亞洲  
一老愁遺撰有問天胡不弔  
傷會中政修亦但於有處喪後子且哭之甚哀其友  
人官島政所書來者氣在驚悼不已因撰聯語  
董島弟育側身無地可誅云  
之用帛嗟之意云先就年歲在矣未遂言以終老為憾

到島以下真書此以賜焉了

爾來少長者一旅之安所仰能應生入未出頭息長逝之報者  
要惟其流之重也年上帶同子厚其終焉如來態之不  
及接先哲之履生分清心俾轉聯語求治字一書報  
七要以自出別樞公使臣既常以舞之即轉聯  
二枚以所使到第有言也故主上作之內未報  
多回如洪者為不宣三月五日  
到島日東人  
了

到島日東人  
天恩恩厚記地就之既公使較機之既為之下厚  
者數所具又日人實事平言天上界之鳴之也  
以河川中為流如石也其計可保昨日之內  
動者見之君子哉若許人上感淚垂花下清于忘明上奉  
又公使館之舉可申以得共不敢書中之以回吞迫得美意也  
官島君文下  
種臣頓首

在吉野送別

初葉休業

二十七日  
宮内省出勤、是日聖上水産博覧會御館畢、井上外務卿  
宮中参り山下新築、對客館命多相談  
清國院談論、如何戰非戰、見込相尋、素非戰論  
ナリ、但し院談一葉モ一旦發清、彼ノ談話ヲ拒キ、  
今更ラ我リ手ヲ出シ候、却テ人ノ割レル、恐アリ、時ハ機  
會ヲ與ヘ候モ、仍テ自然ノ時ヲ待テ肝要ナリ、井上、當  
職以來、由國ノ材、子ノ完ク支那、遣ハ重官、割與、  
我ニ中止ス、今復テ我リ手ヲ出サズ、肝要ナリ、井上、  
達識ナリ  
二十九日、山内宅ヲ、梅見、方子、能、女棟、張、滋、助、  
三十一日、長岡、産、吉野、入、東、王、協、齋、宮、内、  
四月、清、使、松、無、宮、公、葉、館、於、社、吉、野、送、別、  
葛、有、方、子、能、女、棟、張、滋、助、回、石、川、  
百、在、吉、野、送、別、

此皆張滋助ノ招テ、年々、女棟、不、束、方、子、能、當、切、森、決、  
三、日、横、濱、領、事、館、在、吉、野、女、棟、去、未、千、歲、様、有、累、内、  
盛、男、張、送、別、女、棟、回、事、停、京、  
皆、長、政、宅、方、子、能、女、棟、張、滋、助、會、ス、小、田、切、吉、海、未、清、  
樂、歌、有、操、  
十三日、朝、葉、院、院、事、件、書、起、尊、大、風、吹、終、夜、不、止、  
十四日、向、島、花、見、作、行、暑、後、送、中、開、  
十五日、上、野、花、見、  
十六日、園、中、花、見、  
十七日、向、島、花、見、  
十八日、送、別、不、能、往、陳、允、願、女、棟、張、滋、助、  
松、大、輔、米、國、行、事、内、密、談、有、之、方、子、能、方、子、能、  
十九日、宮、内、大、輔、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
二十日、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
二十一日、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
二十二日、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
二十三日、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
二十四日、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
二十五日、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
二十六日、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
二十七日、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
二十八日、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
二十九日、朝、方、子、能、公、使、上、野、  
三十日、朝、方、子、能、公、使、上、野、

此事、井上外務卿、  
把、策、ヲ、抄、リ、  
送、リ、  
末、三、日、  
末、三、日、  
末、三、日、

二十日今日猶為昌有使曾回訪此傳自家云一碑摺贈東且  
極在難放以寄寒之語

啓祭公書

拜啓紅葉離陪飲後久矣拜先以接華翰并拜受先尊大  
人慈志勤及海濱者曾文亦略專日二三友人風編再浮  
詩恙尚見事業固積累亦誠非偶然也茲佩之至亦此為  
賢什曾約黑雲舟遊花後難來天氣未佳故未行乃  
讀吟寄夢之語汗流皆歎日之後幸天晴風定當必  
訂期以去放濤懷乃想身財長志字句松岡恐未諧叶  
請句之天教則何喜如謹奉不宣月三書  
務烈感同下

此以時有外來機密之案於大輔米國歸者後米國強克德氣  
請三五之清國君之無禮之我力之慮後棟相下倒後  
金元金七十萬圓却還之朝鮮方面米國人氣請厚久隨下運  
韓姓之日本之打屋之事情之看之此邊杉氏之善度間接  
利益有之極見愛之

思留大隈親親者分

五月廿六日大隈拜祭

五月廿七日若倉西不行

二十日 仍乙新乙公使參朝國書捧呈

二十日 吉井 執海入沙屋日瑞花 ○此夕大木宅、黑田大隈の會

二十日 養浩堂 訪集 為階下 榎上

三日 元田 傳書 榎方 所何 訪

四日 昨日 黑田 邸層 副島 古隈 一合 入 不入 年 吉井 大隈 拜中

五日 黑田 邸層 訪 〇 榎 副島 到 訪 訪

六日 吉井 邸層 訪 榎 副島 到 訪 訪

七日 吉井 邸層 訪 榎 副島 到 訪 訪

八日 吉井 邸層 訪 榎 副島 到 訪 訪

九日 吉井 邸層 訪 榎 副島 到 訪 訪

十日 吉井 邸層 訪 榎 副島 到 訪 訪

十一日 吉井 邸層 訪 榎 副島 到 訪 訪

十二日 吉井 邸層 訪 榎 副島 到 訪 訪

十三日 吉井 邸層 訪 榎 副島 到 訪 訪

十四日 吉井 邸層 訪 榎 副島 到 訪 訪

岩谷、篤疾之南  
十世上野千出天

二十者、陽能、みち、行、中、毛、降、不、收、さ、し  
二十者、大、給、東、色、良、在、走、〇、吉、井、伊、蘇、井、上、亦、亦、不、忠、告  
二十者、松、方、大、坂、行、途、之、降、卿、ノ、開、政、の、入、招、降、守、り、好、し、り  
三十日、金、之、手、ノ、出、用、ノ、  
三十日、曾、根、俊、虎、東、比、命、来、り、出、南、行、り  
六月、刻、島、来、る、吉、松、作、信、守、守、守、之、舞、ノ、美、矣  
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

五月二十七日吉井ト伊藤井上、亦學々可驚

有忠告

山内

山内  
藤原

山内藤原  
山内藤原  
山内藤原  
山内藤原  
山内藤原

〇山内

山内藤原  
山内藤原  
山内藤原  
山内藤原

山内藤原  
山内藤原  
山内藤原  
山内藤原  
山内藤原

〇山内藤原

十六年三月

○二十六年十一月

十六年二月

髮切常盤村

印刷局元田講談 吉井米元寺元田部

○二十七年

子力々新 之土 水産 於新野宿屋の内宿

井上外務 今中農務 之新 山下新野宿屋 沈法子之 沈あり 飛り

噴霧塔の時年

吉井米元

○二十八年

字子今中 新野宿屋 吉井米元 沈法子之 沈あり 飛り

お名々 お名々 宿屋 宿屋

中條 新野宿屋 吉井米元 沈法子之 沈あり 飛り

○二十九

吉井米元 宿屋 宿屋

吉井米元 宿屋 宿屋

中條 宿屋

長國  
長國  
長國

皇太子を召すに招師を命じしあり。尚切に推極を見し  
 其法ありては、故に其節は且。増進の事あり。若くは  
 三十日全多の節あり。

大山

長國  
長國  
長國

皇太子を召すに招師を命じしあり。尚切に推極を見し  
 其法ありては、故に其節は且。増進の事あり。若くは  
 三十日全多の節あり。

長國  
長國  
長國

皇太子を召すに招師を命じしあり。尚切に推極を見し  
 其法ありては、故に其節は且。増進の事あり。若くは  
 三十日全多の節あり。

梅老傲著

南唐中主後主之書、漢、漢心、

批本身、語世、凡、風、氣、動、心、

新、母、下、條、巨、難、方、日、年、時、無、

詩、集、新、書、詩、一、去、我、心、

詩、集、新、書、詩、一、去、我、心、

深、石、門、新、書、詩、一、去、我、心、

平、日、月、也、

每、占、一、律、律、也、

出、勤、古、勿、

了、了、

上、多、後、一、波、初、及、

火、隨、之、聲、也、

以、是、為、時、

益、是、感、之、

受、物、在、之、

所、起、



以六甲のりて返る也

九月十六日

一日

伊藤のりて返る也

二日

夜吉井に到り夕始り夕霧晴し星光見

三日

四日

五日

下條宛吉井税所本田會長政令日伊香

六日

伊藤下書面了陸之口後藤、伊地知、紅檜、

七日

本日三日前下秋舞音也停止

吉井税所本田入来夜入長政下條

八日

章角親王増喜亮

九日

本日三日前同歌舞音也

十日

十一日 三子内親王御承遷午後五時御一掃衣

十二日 雨 三子内親王御指前拜禮七時暖帳御 年上口金至均訪常州邊遊安二會出見

十三日 三子内親王臨宮御拜衣 豐島園下見

十四日 堀河御下見 井上訪中井伊藤野村吉原孝一向晚食夜談多身而散

十五日 大 章子内親王臨宮裏霞閣御埋葬衣。勝海舟訪

十六日 後時 黎庶恩訪密談九月廿一乃兵舟南へ開ク 常白電音并

十七日 出勤 岩佐入来大ハッ案之日晚未飯飯来飲着月 上杉所居

十八日 八時高橋伊藤等入ル松方断生出勤。今日諸參謀一日出勤并上人不

十九日 出勤 前大雨。今日八時并伊藤福島出勤 大坂三絶死自殺人不知其所以

二十日 出勤 井上三別行。中野榎一昨大坂三絶死自殺人不知其所以

二十一日 出勤 松方山形大参官 御輔退者松方(リ) 晚来入月

朝伊藤(行)  
出勤伊藤(参)  
○育、育、談話  
明日、初島(行)

出

二十二日 管内出勤 山將、面合(リ) 晚来入月

二十三日 夜来并部(行) 金均訪不達 島原五居(無) 向島七草ヲ視テ遊ハル所

二十四日 林越(行) 至(中) 八(時) 松方(行) 午後木下(行) 行リ松方(行) 在(行)

二十五日 管内出勤 知(行) 松方(行) 在(行)

二十六日 出勤 西南(行)

二十七日

二十八日 吉井 福島(行) 帰

二十九日 伊地知 吉井 梶川 育(行) 層(行) カリ 吉井(行) 吉井(行)

三十日

西郷南洲(行)

育(行)

育(行)

伊藤  
福日  
伊藤

月

出

不

出

十月十六日

一日

仁禮敬之外名清園行何如障詩夢誌身。夜島田平八束

二日

地之標入東洋多所圍中  
夜湯一浴葬在光尾張町洋食 御遊坊、魚湖、清積

三日

在宅古帳所 横查 古在也代切之刀不

四日

不家斗也計部 計部

五日

伊藤自福島歸家計之 計部 午以長村物而收之

六日

伊藤今日ヨリ入宮内

七日

晴 中夜食 暴風雨

八日

清公使重陽一會、夜九時松方ヲ訪テ談ス 松方若服

九日

井上長崎 清公使重陽一會、夜九時松方ヲ訪テ談ス 松方若服

十日

井上長崎 清公使重陽一會、夜九時松方ヲ訪テ談ス 松方若服

宮内省

宮内省

土日 午後清使の信清皇族より聞り 長考ノ事ヲ漢ス 公使の信清より

十一日 黎公使有皇族の香書

十三日 風暴甚友手會断 夜四輩ヲ集メテ詩ヲ賦セシム 九月十三夜

十四日 別島ヲ訪リ伊香保及若倉ノ詩ヲ出シ 魔鳥ノ改葬碑文ヲ漢シ

十五日 別島入来支まり吉井ヲ訪リ之ニ已出テ坂蘭漢来夜半詩會

十六日 米花堂書經漢義ヲ問明月好シ

十七日 清公使重陽ノ詩ヲ贈ル 此方深重陽ノ詩ヲ贈ル

十八日

十九日

二十日

二十一日 卯交棟黃起霜ノ時乃来ル暫時茶談 大ハ猶病

朝上杉公来リ遊  
事ヲ談ス  
千段ト向浴松金  
食糧、井上ノ  
書ヲ申カシム

四日  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一

二十二日 元田講譯ノ為得能定行帰途青、三青洋食場宅又餐下瀬

二十三日 坊島一泊支り吉井同伴伊地知ト相庵ト宅ト會ス

二十四日

二十五日 巖地壽家宅東ニ下田来リ送別會井田共藏人達 卯交棟

二十六日 四谷郷細木子ヲ買リ夜長改築出入来晚合ル 子金形トシテ一泊

二十七日 坊島ノ吉井ノ會々方日別島ノ伴ト伊藤藤ヲ話ト言リ別島折申カ

二十八日 忠告、命シテ木子ヲ伊藤藤造ニ指浴金玉均達 池田入来トシテ此

二十九日 山縣ニ逢テ金玉均事ヲ談ス楠伊藤同断 税所行遂ニ塩浴 子即親所打

三十日 三島杉木懸兼任仍テ税、答ル一寸税所ハ高ル 此方一應法被ノ可ク

三十一日 外交事代ナリ井上廻送 午前大雨不晴夜ハ俄然暴風

宮内省

十月十六年

伊藤参議歐洲より帰る九月十九日始ラ宮内言上ノ事アリ翌  
 二日福島開鑿場疏水新道邊見分出張此時吉井（録出）會長  
 出張セリ十月六日帰京其日兒玉書記官翌七日以テ本省  
 入口ヲ替へ御輔ノ室ノ鄭重ニ造リ書記官室ニ區別ス前  
 日香川少輔西京へ出張シ省中ハ唯杉大輔一人ナリ而シテ御輔ノ  
 室入口ニ二人ノ番人ヲ置伊藤参議十月八日入内謁見此日杉  
 元田不参徳寺卿一人ナリ此入口改革新趣向ノ蘭卷ナリ  
 濟寧館ニ後トナシ

（福島）  
 吉井出張ノ前當深  
 磯部温蔵ノ出張  
 税前ノ泊ニ送ル  
 十七年一月二十七日  
 宮内ノ改革  
 杉曰此ハイハテ廣クハ  
 ナイ  
 誠曰此次見ナリ  
 杉曰誰ヲ見テ書記  
 モニ二人ノ外ハ知ラズ  
 伊藤タロウ  
 誠曰ソレノ上ラ減ラ  
 ハ仕方カトシニハ新  
 等ニ出レリ

誠曰余ハ不見唯同イタルナリ仍テ此事ノ伊藤極密ニ行ヒシナリ必ス  
 見タリニ非ズ同イナリ香川少輔ハ嚴シク此事ヲ答メナリ  
 同リ合シ是ハ使様ナリ杉ノ松入 88

十七年

芳川道吾温泉幸  
井上ヲ誘幸温泉  
帰ル此時ハ佛六ハ  
類ハ倭倭母南山台  
臨洛ノ身一ノ百竊  
井上曰ク支那ノ言ハ  
汝上ハ使スルカ如ク類ハ  
ト云ハス支那ノ今度ハ  
極子ヲ宮島ノ名  
望モ落ル  
伊藤曰然リ  
井上曰副島如何  
三條曰副島冬ニ不  
来。

伊藤宮内卿兼任官中ニ入ル

其後ハ一切聲氣通ス久田元ヲ對テ思按ノ如ク  
執力カク殺シテ一昨十日帝立ヲ取調ラ御前ニ  
進シ遂テ何事モナシ知ラザルイリ廿官ノ服ノ如キモ二  
様アリ委負ハ如此人ニテ遂テ之ヲ取調ハ相濟ハ  
一體ハ甚ク難シ

井上曰地券論モシタビレタカ 伊藤曰王土論カ

誠曰耶蘇宗旨ハ畏レベシ清人ニ安南ニ在リテ耶蘇教ヲ服スモ  
ハ此度清佛戦ハ皆佛軍ノ腹後ニテ清國ニ及旗ヲ觀セシヨ  
伊藤曰新島襄ニ聞セタラ唯立腹一言ナラ

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

十六年

四月

二十七日 金

宮内出勤

山園飯大々々(違)

柳匠殿、軍書直筆ヲ見、中々目色十二條アリ

児玉書能及リ山陽書牘と返却(リ)

榎原領事陳允頤、有書州府和韻并書寄リ、ト其

名也、人生其徳、詠家

姚文棟玉悅齋、の来、仍齋、白井生、おん事、後、(リ)日下

義雄、佳人之リ

北長以、詠、骨、系、竹、内、大、付、来、(リ)尚、切、口、此、鞆、馬、(リ)約、(リ)不、  
上、臨、酒、(リ)柳、(リ)中、(リ)得、(リ)書

四月二十日、晴、有、風、玉、曜

庭前、櫻、花、随、風、為、死、(リ)因、由、榮、亦、將、無、色、(リ)午、前、風、起、  
梅子、如、豆、大、漸、欲、生、酸、味

書房出勤 与久世公 公用日記 返却 明治十年清用書

明治十年六月十日 二宮口書

明治十年六月十日

明治十年六月十日

明治十年六月十日

明治十年六月十日

明治十年六月十日

明治十年六月十日

明治十年六月十日

果香日誌  
安達進報

明治十六年六月十日



五月廿七日

後湯快進之にお誘導の旨有忠告之非井上は小ト交  
祭時能形之先河橋久之る足より日分七は原山縣物  
め之新し

六月廿六日

野島田守言并

六月十三日 三峰内信

山縣大隈近況如何

一日黒田有書状、十年振立の副島と居し、大隈方亦七条  
會音多、預外年と下、景況と換、去り、副島本  
帰あり、故、形、お強し、黒田白り、感、多、形、換、去、即、交  
際、と始、多、の、大、事、時、多、味、田、内、大、其、疎、隔、の、時、非、本  
田、此、會、を、命、を、取、り、何、年、刻、多、大、隈、之、意、底、を、傳、(其、  
一、多、中、の、年、其、の、黒、田、等、際、を、會、及、と、感、得、の、即、音、  
大、隈、方、亦、七、条、限、り、有、言、事、の、辨、解、の、道、井、上、  
右、部、等、し、た、り、井、上、伊、藤、岡、原、向、後、の、建、立、何、れ、の、  
可、世、有、の、故、在、り、其、中、に、有、行、か、七、の、限、の、心、也、也、

且、今、の、自、治、之、政、進、  
當、初、の、解、部、の、學、  
徳、小、政、身、と、助、け、  
國、事、に、心、配、を、  
多、く、下、事、に、



此の如くもたへ 所止し之を意成し何と云ふ  
中し其れ <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
先出仕仕 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
元 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事

早止し <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
其れ <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
遠く <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
皆 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
の <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
於 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事

此の如くもたへ 所止し之を意成し何と云ふ  
中し其れ <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
先出仕仕 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
元 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
皆 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
の <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事  
於 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事 <sup>叶入也</sup> 事と云ふ事

徳省の局長等々 御前における御話 御前における御話

其の世

初田  
夏手考大木考  
以田  
育不書考  
三田  
育不書考

谷十郎忠信  
谷十郎忠信  
谷十郎忠信  
谷十郎忠信  
谷十郎忠信  
谷十郎忠信  
谷十郎忠信  
谷十郎忠信  
谷十郎忠信  
谷十郎忠信

三浦隆興  
三浦隆興  
三浦隆興  
三浦隆興  
三浦隆興  
三浦隆興  
三浦隆興  
三浦隆興  
三浦隆興  
三浦隆興

王子曾  
王子曾  
王子曾  
王子曾  
王子曾  
王子曾  
王子曾  
王子曾  
王子曾  
王子曾

六月十三日

初田伊地之黒田  
初田伊地之黒田  
初田伊地之黒田  
初田伊地之黒田  
初田伊地之黒田  
初田伊地之黒田  
初田伊地之黒田  
初田伊地之黒田  
初田伊地之黒田  
初田伊地之黒田

初田

予親吉并曰先生之鉄道一繞一身亦有其味  
運轉を予々車ハ其年々経道云々以來其運  
轉甚多

其好曰予々鉄道ハ日本ハ一部多ク故ニ運轉  
ハ易シ先生ハ其車ハ其年々経道云々以來其運  
轉甚多不共其年々経道云々以來其運轉甚多

十月十日

此為島嶼之... 長月... 又井上... 梅... 皇... 加... 皇...

十月十日

此為... 皇... 皇... 皇...

上段 花...

亦... 皇... 皇...

皇... 皇...

皇... 皇... 皇...

皇... 皇... 皇...

皇... 皇... 皇...

皇... 皇... 皇...

皇... 皇... 皇...

皇... 皇... 皇...



青  
事

十六日 七月

一日 井上<sup>出</sup>の訪に伊藤<sup>出</sup>、會<sup>出</sup>の横本<sup>出</sup>の十月<sup>出</sup>若<sup>出</sup>の書<sup>出</sup>、<sup>出</sup>忍

二日 吉井<sup>出</sup>と税所、會<sup>出</sup>の吉井<sup>出</sup>芝<sup>出</sup>、指<sup>出</sup>宅<sup>出</sup>ラ<sup>出</sup>タ<sup>出</sup>、常<sup>出</sup>盤<sup>出</sup>、<sup>出</sup>三<sup>出</sup>間<sup>出</sup>佐<sup>出</sup>利<sup>出</sup>、<sup>出</sup>出

三日 元田、天長節<sup>出</sup>の球<sup>出</sup>樂<sup>出</sup>、<sup>出</sup>献<sup>出</sup>、夜<sup>出</sup>外<sup>出</sup>務<sup>出</sup>省<sup>出</sup>、<sup>出</sup>黎<sup>出</sup>使<sup>出</sup>見<sup>出</sup>、<sup>出</sup>出

四日 午後<sup>出</sup>高<sup>出</sup>島<sup>出</sup>、<sup>出</sup>高<sup>出</sup>島<sup>出</sup>在<sup>出</sup>、<sup>出</sup>筵<sup>出</sup>、<sup>出</sup>歸<sup>出</sup>宅<sup>出</sup>真<sup>出</sup>吉<sup>出</sup>井<sup>出</sup>、<sup>出</sup>到<sup>出</sup>税<sup>出</sup>所<sup>出</sup>一<sup>出</sup>層<sup>出</sup>、<sup>出</sup>出

五日 吉井<sup>出</sup>と本<sup>出</sup>在<sup>出</sup>、<sup>出</sup>到<sup>出</sup>新<sup>出</sup>前<sup>出</sup>、<sup>出</sup>機<sup>出</sup>械<sup>出</sup>、<sup>出</sup>見<sup>出</sup>本<sup>出</sup>在<sup>出</sup>、<sup>出</sup>泊<sup>出</sup>、<sup>出</sup>本<sup>出</sup>間<sup>出</sup>榮<sup>出</sup>、<sup>出</sup>出

六日 上野<sup>出</sup>歸<sup>出</sup>車<sup>出</sup>吉<sup>出</sup>井<sup>出</sup>、<sup>出</sup>塩<sup>出</sup>湯<sup>出</sup>、<sup>出</sup>談<sup>出</sup>、<sup>出</sup>此<sup>出</sup>夜<sup>出</sup>川<sup>出</sup>崎<sup>出</sup>正<sup>出</sup>造<sup>出</sup>宅<sup>出</sup>、<sup>出</sup>松<sup>出</sup>乃<sup>出</sup>税<sup>出</sup>所<sup>出</sup>會<sup>出</sup>、<sup>出</sup>出

七日 雨、<sup>出</sup>勝<sup>出</sup>有<sup>出</sup>、<sup>出</sup>情<sup>出</sup>、<sup>出</sup>出

八日 伊地知<sup>出</sup>の訪<sup>出</sup>、<sup>出</sup>話<sup>出</sup>、<sup>出</sup>税<sup>出</sup>所<sup>出</sup>隔<sup>出</sup>途<sup>出</sup>、<sup>出</sup>税<sup>出</sup>所<sup>出</sup>、<sup>出</sup>到<sup>出</sup>三<sup>出</sup>島<sup>出</sup>、<sup>出</sup>指<sup>出</sup>不<sup>出</sup>應<sup>出</sup>、<sup>出</sup>出

九日 朝<sup>出</sup>井<sup>出</sup>上<sup>出</sup>到<sup>出</sup>、<sup>出</sup>午<sup>出</sup>後<sup>出</sup>清<sup>出</sup>公<sup>出</sup>使<sup>出</sup>、<sup>出</sup>話<sup>出</sup>、<sup>出</sup>三<sup>出</sup>時<sup>出</sup>間<sup>出</sup>談<sup>出</sup>、<sup>出</sup>夜<sup>出</sup>塩<sup>出</sup>浴<sup>出</sup>、<sup>出</sup>出

十日 小石川<sup>出</sup>後<sup>出</sup>深<sup>出</sup>園<sup>出</sup>、<sup>出</sup>放<sup>出</sup>、<sup>出</sup>友<sup>出</sup>、<sup>出</sup>會<sup>出</sup>、<sup>出</sup>夜<sup>出</sup>塩<sup>出</sup>浴<sup>出</sup>、<sup>出</sup>出

佛 清  
談 判 清 是 出

出 出 出 出 出 出



清〇〇〇  
佛談判釋

十四日 井上、一書、吉井ト親古層一見、金杉敬步、遂、本因訪、又親。

十五日 風氣未除、中村敬以、訪、詩集、贈、中村酒、中、詩集、淡、

十六日 書、贈、詩、集、夜、吉井、林、河、田、大、久、保、祝、觀、刀、會、

十七日 永、肺、志、岸、良、兼、養、出、計、求、

十八日 風邪、小、田、加、親、菊、會、訪、未、先、堂、香、局、同、赴、

十九日 伊、藤、訪、井、上、山、縣、來、川、リ、ク、シ、ク、談、清、使、面、會、セ、リ、

二十日 井、上、訪、不、逢、三、條、公、一、寸、糸、上、吉、井、久、三、訪、吉、藤、兼、親、

二十一日 井、上、訪、不、逢、三、條、公、一、寸、糸、上、吉、井、久、三、訪、吉、藤、兼、親、

昨日伊藤事

井上道五海龍の  
遊遊  
清佛、  
英國調傳、

二十二日 午後三條、到、清、使、一、寸、糸、上、吉、井、久、三、訪、吉、藤、兼、親、

二十三日 新嘗祭、

二十四日 新嘗祭、

二十五日 平田東助、來、坂、前、同、赴、元、田、有、信、又、送、信、ラ、出、三、條、り、送、書、有、

二十六日 雨、夜、地震、

二十七日 長、以、寸、糸、上、吉、井、久、三、訪、吉、藤、兼、親、

二十八日 塩、湯、一、治、鹿、鳴、雁、成、層、赴、リ、

二十九日 田、原、破、衝、ノ、為、不、糸、

三十日 休、

二十日事情

予、伊、藤、ノ、永、田、河、ヲ、訪、ニ、居、リ、シ、井、上、山、縣、來、リ、井、上、曰、昨、日、清、公、使、

宮内省

ヲ訪フ、互ニ電報ヲ示セリ、清公使モ余程喜ヘリ。

伊藤曰、清廷ニハ日本ハ佛國ト牒シ合セタラ思フエハ、種ニ申ス

シ

ニ十四日、白金吉田清成宅ニテ、予井上、向フ佛公使トリシ、頗ル日

本ノ頼ミ足ルヲ恨ム、如何井上曰、予ノ位ノモハ畏ロシクヤシ

此ヨリ井上伊豫ノ道者温泉ニ行キ、清國ヨリ榎本公使ヲ呼ビ

返シ、朝鮮ヨリ河添公使ヲ呼ビ返ス、伊藤外務卿シ、兼任セリ。

ニ十六日、伊藤奏議ト稱シ、公使ト清國公使、黒田内閣顧問訪シ午後五時、頃、長教

日、杉口内務省邊事ハ中、機密トシ遊歴家往來ハ宮内省ノ如キ處

ナレ、仍テ今日ヨリ、卿輔面謁ヲ要スルヲハ更ニ申シ入ルベキ達シ出

ス處ナラフノ書ヲ付ケ、位ハ何ニテ其為ニ達シカ出テタラ思ハ様ナリ

十六年、高崎鐵道存存、神奈川近海成業成

十月、昔有日軍、如多遠、於所、茶檜場ニテ、明治十七年

本老、馭諸井幸次郎、泊、本倉山房見ル、本間英一道

十時、發本誌、四七分、能、本倉山房着、十二時、二十五分、鴻、本倉山房合、揚

尾

竹田書畫梅、竹田

十六年

十月

日本使司温泉通近方澄益劄筆軒

誠曰前公使何君任福建造細辦理此官屬何品

方曰此係差事何公現升少詹四品此本官

誠曰此官猶稱大臣乎

方曰欽差大臣少詹正四品堂上官卿也

誠曰聞佛兵欲擊北寧此言真乎

方曰無確者井上何往

誠曰道者温泉

方曰即箱根乎

誠曰名伊豫國

誠曰方君迥有佳作否

方曰惟重陽後和公使九日詩韻與陳君養源黃君吟  
梅偈和玉九疊韻而已餘無所作也

誠曰昨身請觀先生寶藏金石古字不知許否

方曰如欲觀暇時扭過可以從覽

方曰貴國右大臣一席欲定何人有成議否

誠曰想此一席姑欠之 敝歷將盡為甚佳事

方曰貴國新年將近想過身時必有一翻熱鬧

誠曰貴國梅花以何時盛開

方曰此時亦將開矣

